

大阪府・大阪狭山市

狭山池博物館

—古代の土木技術と1400年の歴史に思いをはせる—

喜多直之 編集委員

今では桜の名所としても知られ、大阪狭山市のシンボリック的存在となっている狭山池は、飛鳥時代に川を堰き止めてつくられた日本最古のダム式ため池であり、1400年の歴史をもつ。その利水範囲は思いのほか広く、17世紀初頭には現在の堺市から大阪市南部に及んでいた。長い歴史のなかで池には何度も手が加えられ、最近では1982年の豪雨被害を契機に洪水調節機能をもたせた「平成の大改修」が行われている。安藤忠雄氏の設計による狭山池博物館は、このとき明らかとなった狭山池の遺構を保存し、その歴史的意義を後世に伝えることを目的としている。

館内に入ると、この博物館の最大の見どころである堤体断面(高さ15・4m、幅62m)が目に入る。これは平成の大改修時に切り出し、最新の技術を使って保存展示したもので、時代を追って断面が大きくなっていった様子がよくわかる。これに続く展示は池の誕生から平成の大改修まで七つのゾーンに分かれている。

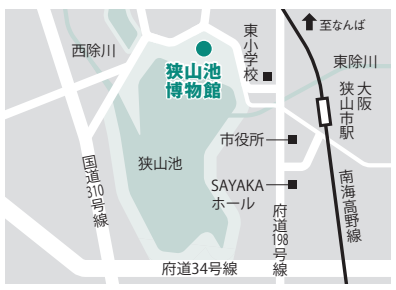
今回この博物館を取り上げたのは、奈良時代に改修を行った僧「行基」への興味がきっかけであった。行基は、仏教でいう利他行(社会的実践)の精神から近畿一円で橋を架けたり港や池をつくるなど、多くの土木事業を手がけている。当時の僧はいわば総合的知識人であり、土木に関する知識ももっていた。そして、宗教を背景とした統率力をもつプロジェクトマネージャー行基の周囲に、先端技術を有した渡来系の技術者集団がいたことは間違い

ないと考えられている。たとえば「敷葉工法」という古代のジオテキスタイル工法は、中国や朝鮮半島にも同様のものが見られることが展示でも示されている。大陸から伝わったこの工法には通常粗朶やヨシなど繊維状の植物が用いられるが、狭山池では緑の葉がついたままの小枝が用いられている。これも日本人らしい「改良」であろうか。

この博物館は関西国際空港に近いことから、日本にきた外国人が最初に立ち寄る観光スポットとしてもよく利用され、また、国内外を問わず安藤忠雄氏の作品として建物自体を見に来る人も多いそう。たくさんの人に知ってもらい、文化に接するゆとりや心地よさを知ってもらいたいという願いから入場料は無料になっている。

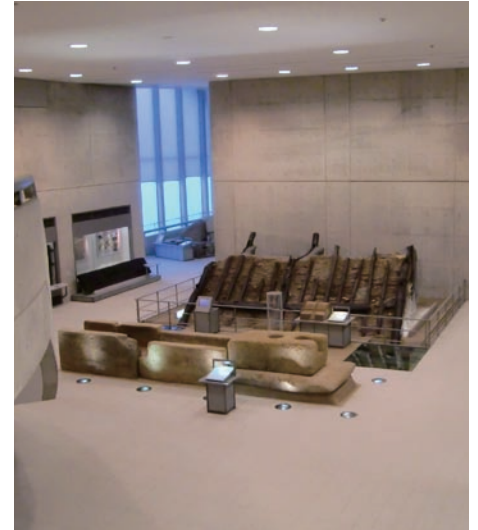
Access アクセス

所在地 〒589-0007 大阪狭山市池尻中2丁目
電話 072-367-8891
交通 南海電鉄高野線大阪狭山市駅下車、西へ徒歩10分
開館 10:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜(祝休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月4日)、冬期臨時休館
入場料 無料
URL <http://www.sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/>





安藤忠雄氏設計の博物館本館



館内の展示状況



近世の中樋(取水口)



平成の大改修で切り出した堤体断面



地元の小学生による書き初め展



堤体と狭山池



奈良時代に改修を行った僧「行基」の木像